

まえがき

英語を習得する上で、我々日本人にとって最後まで残る困難な課題が、冠詞のマスターです。その主な理由は、《特定》《不特定》という、冠詞の使い分けのキーワードとなる2つの概念が極めて解りにくく、定義が難しいという点にあるものと思われます。実際、専門の学者の間でも、《特定 (definite)》の定義について、通説といわれるものはいまだ形成されていないのが実情のようです。

本書は、これまでにない新しいアプローチを採用することによって、以上のような困難を克服することを狙いとしています。まず、《特定》《不特定》という概念を一義的に定義し、それを個別のケースに当てはめるというアプローチではなく、英語のネイティブスピーカーが「特定されている（または、特定されていない）」と感じるさまざまな場合を取り上げることによって、それらを通して《特定》《不特定》のイメージを浮かび上がらせるという方法を採用しました。また、泳ぎ方の理論を本でいくら読んでも、実際に水の中に入って泳ぐ練習をしなければ泳げるようにならないように、冠詞の用法に関する理論をいくら学んでも、それだけでは冠詞を使えるようにはなりません。そこで、本書では、冠詞の用法に関する理論を第1章で学んだ後で、多種多様な冠詞の用法を、実践を通して体験的に習得していただくために、第2章において21の練習問題を用意しました。本書が、これらの新しいアプローチを通して、読者諸氏の冠詞学習の効果を高める一助となることを心から願ってやみません。

最後に、度重なる原稿の遅れにもかかわらず、忍耐強くご対応いただいたジャパントイムズ出版局出版編集部伊藤秀樹部長と同部西田由香の両氏に、篤く御礼申し上げます。また、忙しいスケジュールをやりくりし、草稿に目を通すとともに、執筆段階での筆者のさまざまな質問に忍耐強く答えてくれた、友人であり監修者のKen Cook氏に、感謝します。最後に、長年私を側面から支え、本書の執筆においても有益なアドバイスを与えてくれた妻由紀子に、心からの感謝の意を表したいと思います。

2007年4月
椎名照雄

CONTENTS

まえがき ■ 3

本書の構成と使い方 ■ 6

第1章 冠詞の使い方 (解説編)

1 はじめに ■ 8

2 《特定》と《不特定》の区別 ■ 9

2① 《特定》と《不特定》の具体例と冠詞の使い分け — 9

2② 《特定》《不特定》の意味 — 15

3 《可算》と《不可算》の区別 ■ 18

3① 《可算名詞》と《不可算名詞》の区別 — 18

3② 《可算名詞》の具体例 — 19

3③ 《不可算名詞》の具体例 — 20

3④ 《可算名詞》としても《不可算名詞》としても使われる頻度が高い名詞 — 21

4 不定冠詞、定冠詞、無冠詞をどう使い分けるか ■ 24

4① 不定冠詞 *a(n)* を使う場合 — 24

4② 定冠詞 *the* を使う場合 — 27

4③ 無冠詞の場合 (冠詞を使わない場合) — 33

5 冠詞の総称的用法 ■ 34

5① 《可算名詞》の総称 — 34

5② 《不可算名詞》の総称 — 35

6 冠詞の例外的用法、特殊なケース ■ 35

第2章 練習問題

DAY 1 UNIT 1 Being a father in Japan ■ 46

日本の父親業

UNIT 2 Strengthening public safety ■ 50

国民の安全を強化する

UNIT 3 A tribute to a brave soul ■ 54

勇敢なる魂に捧ぐ

DAY 2 UNIT 1 English as you like it ■ 58

好みで選ぶ英語

UNIT 2 Do the right thing for emigrants ■ 62

移民に正当な措置を

UNIT 3 A mind to reduce waste ■ 66

無駄を減らす精神

DAY 3 UNIT 1 The possibility of work at any age ■ 70

どんな年齢でも働ける可能性を

UNIT 2 Revitalizing Japanese agriculture ■ 74

日本の農業を再活性化する

UNIT 3 Banking on safer cash cards ■ 78

安全なキャッシュカードへの信頼

DAY 4 UNIT 1 Brave new words ■ 82

素晴らしき新語

UNIT 2 Confidence in train safety ■ 86

列車の安全性に対する信頼

UNIT 3 Flawed compromise takes effect ■ 90

誤った妥協の産物が発効

DAY 5 UNIT 1 Fishing for 'interesting individuals' ■ 94

「興味深い個性」を探して

UNIT 2 Preventive care for the elderly ■ 98

高齢者のための予防的介護

UNIT 3 Bamboozled by buzzwords ■ 102

専門用語に悩まされて

DAY 6 UNIT 1 Glory days for Japanese baseball ■ 106

日本の野球の輝かしい日々

UNIT 2 A divide over the income gap ■ 110

所得格差の拡大

UNIT 3 Making ends meet with less ■ 114

より少ない資金で収支を合わせる

DAY 7 UNIT 1 Wisdom for an aging world ■ 118

世界的高齢化傾向に対する知恵

UNIT 2 Cloaks of invisibility, new and old ■ 122

透明技術の今と昔

UNIT 3 Japan's economic upturn ■ 126

日本経済の好転

第1章

冠詞の使い方（解説編）

1 はじめに

英語の冠詞には、**定冠詞**、**不定冠詞**、**無冠詞**の3種類があります。これらをいかに**使い分けるか**というのが、本書での私たちの課題です。まず冠詞の使い分けに関する全体像を見てから、各論に入ることしましょう。

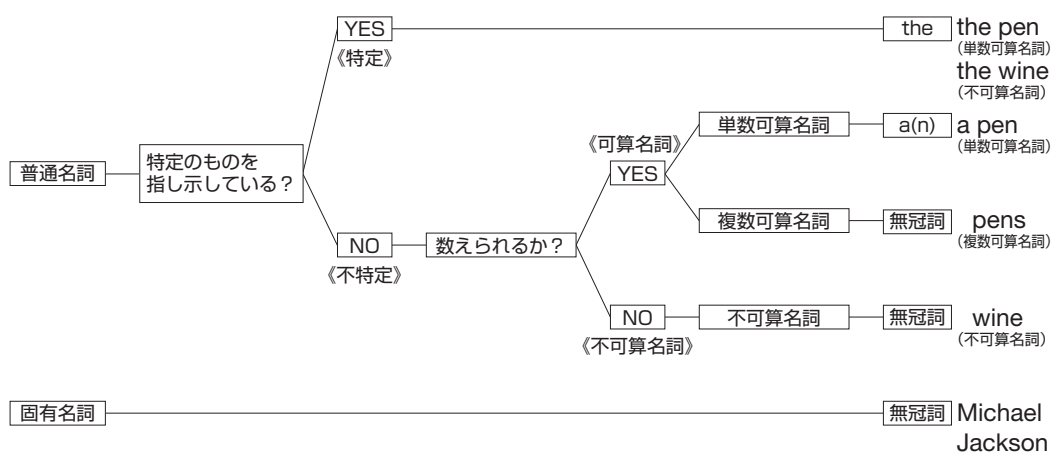
冠詞が**名詞**につけられるということは皆さんご存じのとおりですが、どの冠詞を使うかを決める第一歩は、その名詞が**《特定》のもの**を指し示しているのか、いないのかを判断することです。名詞が**《特定》のもの**を指し示している場合は、**定冠詞 the**をつけます。この場合、その名詞が**数えられる名詞**（可算名詞）か**数えられない名詞**（不可算名詞）かは関係ありません（《可算名詞》《不可算名詞》については後で取り上げます）。従って、**単数か複数か**ということも関係ありません。ただし、一つ例外があります。それは**固有名詞**の場合です。固有名詞には原則として**冠詞をつけません**。

一方、その名詞が**《特定》のもの**を指し示していない場合は、その名詞が《可算名詞》か《不可算名詞》かということと、《可算名詞》の場合は、さらに、それが**単数か複数か**ということが問題になります。その名詞が**単数の《可算名詞》**の場合は**不定冠詞 a(n)**をつけます。単数《可算名詞》以外の場合は、つまり、**複数《可算名詞》**の場合と**《不可算名詞》**の場合は**冠詞をつけません**。

これを覚えやすいように要約すると次のようになります（固有名詞は除きます）。

- ・名詞が**《特定》のもの**を指し示している場合は、**定冠詞 the**をつける
- ・名詞が**《不特定》の一つのもの**を指し示している場合は、**不定冠詞 a(n)**をつける
- ・名詞が**《不特定》の複数なもの**を指し示している場合は、**冠詞をつけない**
- ・名詞が**《不特定》の数えられないもの**を指し示している場合は、**冠詞をつけない**

以上を図示すると次のようになります。

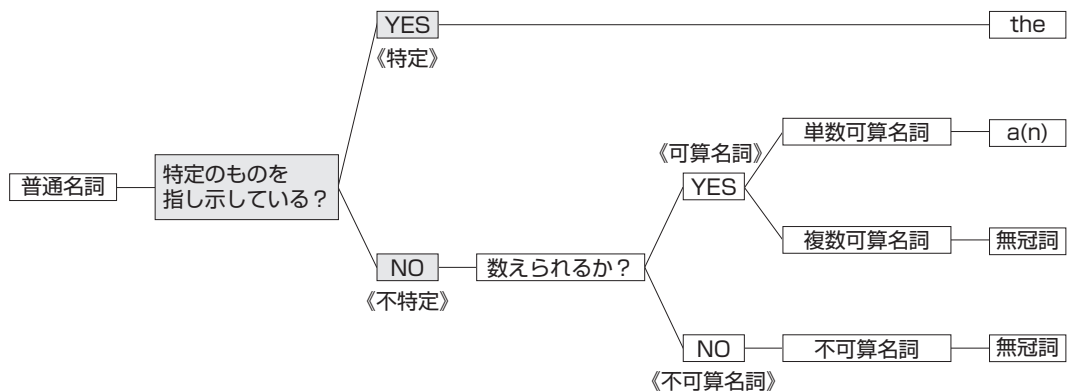


この図からも、**《特定》**と**《不特定》**の違い、および**《可算名詞》**と**《不可算名詞》**の違いを正しく理解することが、冠詞を正しく使い分ける上で鍵となることがおわかりいただけると思います。

注：本書で「もの」と言う場合は、物質的な「もの」のみならず、「人」、出来事などの「こと」、および抽象概念なども含みます。

2 《特定》と《不特定》の区別

このセクションでは、以下の網掛けした部分を中心に解説します。



2.1 《特定》と《不特定》の具体例と冠詞の使い分け

日本語には冠詞がないため、《特定》《不特定》の概念は日本人にとって大変わかりにくいものです。言うまでもなく、英語のネイティブスピーカーは、無意識に正しく冠詞を使い分けていますが、彼らが《特定 (definite)》と《不特定 (indefinite)》の違いを説明できるかという点、言語学者でない限り難しいでしょう。厳密に言うならば、言語学者の間でも、実際に使われている *the* や *a(n)* のすべてに当てはまる《特定》《不特定》の定義は定まっていないのが現状です。日本人が苦手とするのも無理はないといえるでしょう。

このように考えると、《特定》《不特定》の意味を一義的に定め、それをもとに冠詞の使い方のすべてを説明するというやり方には無理があることがわかります。そこで本書では、ネイティブスピーカーが「特定されている（または、特定されていない）」と感ずる場合をさまざまな例を通して観察し、それらを通して、まず《特定》《不特定》という見方を体感してもらうことから始めたいと思います。その上で、《特定》《不特定》の一般論的な説明を補足するというアプローチをとることにします。

それでは、具体的な例を見ていきましょう。それらを通して、英語における《特定》《不特定》の感覚をつかみ取ってください。

例 1 あなたは昨日パソコンを買いました。そのことを伝えるために、友人の由紀子に電話して「昨日、新しいパソコンを買ったんだ」と言います。そして続けて「そのパソコンで早速オンラインショッピングをしちゃった」と言います。

第 2 章

練習問題

Exercise

Being a father in Japan

Saturday, September 30, 2006

①() comparative survey on parenting in Japan, South Korea, Thailand, ②() United States, France and Sweden by the National Women's Education Center, Japan, underscores ③() problems that ④() Japanese fathers must deal with. ⑤() problems range from ⑥() few hours they spend with their children, and their dependence on wives for disciplining their children, to their lack of preparation to be fathers in the first place. ⑦() social circumstances may be responsible for some problems, but ⑧() fathers can help themselves by raising their levels of awareness.

⑨() survey found that Japanese fathers spent ⑩() average of 3.1 hours a day with their children — compared with 3.3 hours in ⑪() 1994 survey. This amount of time was ⑫() second shortest after South Korea's 2.8 hours. By contrast, Thai fathers spent 5.9 hours — the longest — followed by 4.6 hours in both the U.S. and Sweden, and 3.8 hours in France.

⑬() reverse side of ⑭() story is that ⑮() Japanese mothers spent the longest amount of time — 7.6 hours — with their children, followed by 7.1 hours in South Korea, Thailand and the U.S., 5.8 hours in Sweden and 5.7 hours in France.

⑯() work hours put in by Japanese fathers are clearly responsible for ⑰() situation. On average, they worked ⑱() most at 48.9 hours a week, followed by 48.8 hours in South Korea. Swedish fathers averaged ⑲() least at 37.7 hours. Forty-one percent of Japanese fathers complain about ⑳() lack of time spent with their kids, up from 28 percent in ㉑() previous survey.

㉒() heavy work burdens are depriving many Japanese fathers of

㉔() chances not only to play with their children but also to have dinner with their families. Children deprived of hearing ㉕() conversations between their fathers and mothers may be missing important cues for developing ㉖() social discipline demanded of ㉗() adults as well as ㉘() strength, perseverance, wisdom, ingenuity, etc., also required of ㉙() adults outside ㉚() home.

The survey also shows that Japanese fathers tended to delegate ㉛() responsibilities for their children's discipline and education to their wives. Only 11.9 percent of Japanese fathers attended ㉜() meetings of parents and teachers in ㉝() kindergarten, ㉞() second-lowest rate after South Korea's 7.9 percent. Swedish fathers' attendance was ㉟() highest at 54.7 percent, followed by the U.S. (35.6 percent), Thailand (29.8 percent) and France (26.9 percent).

The survey shows that only 10.1 percent of Japanese fathers prepared or helped to prepare ㊱() meals, compared with 45.6 percent in Sweden, 34.8 percent in the U.S., 27.6 percent in Thailand, 27 percent in France and 20.4 percent in South Korea. Japanese fathers appear to lack ㊲() time either for cooking and having dinner with ㊳() family members or for acquiring ㊴() knowledge and ㊵() skills to prepare meals.

The survey indicates ㊶() importance of encouraging ㊷() enterprises as well as ㊸() government to strive to reduce work hours so that ㊹() fathers can participate more in ㊺() family life. At the same time, it points to ㊻() need for ㊼() Japanese men to change their thinking about ㊽() work and their roles in ㊾() family.

Vocabulary

- parenting : 子育て
- underscore : 明確に示す
- dependence on ... : ...への依存
- discipline : しつける
- deprive : 奪う
- cue : 手がかり
- perseverance : 忍耐
- ingenuity : 創造性
- delegate : 委任する

DAY 1 UNIT 1

注：ルール番号 8-a-1 と 8-a-2 に関しては、それぞれ「名詞の出現前に述べたこと」と「名詞の出現後に述べられていること」に該当する部分を→の後に引用しています。また、答えの「0」は無冠詞を意味しています。

答え&解説

- ① A ▶▶ ルール 1
- ② the ▶▶ ルール 26-4
- ③ 0 ▶▶ ルール 18
that以下によりtheも可だが、無冠詞が一般的
- ④ 0 ▶▶ ルール 18
- ⑤ The ▶▶ ルール 8-a-1
→ problems
- ⑥ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ they spend with their children
- ⑦ 0 ▶▶ ルール 18
- ⑧ 0 ▶▶ ルール 18
theも可。fathersは問4で既に出てきているが、二度目以降は必ずtheとしなければならないわけではない
- ⑨ The ▶▶ ルール 8-a-1
→ comparative survey
- ⑩ an ▶▶ ルール 1
- ⑪ a ▶▶ ルール 1
- ⑫ the ▶▶ ルール 8-e
- ⑬ The ▶▶ ルール 8-e
- ⑭ the ▶▶ ルール 8-a-1
→ 第1パラグラフで述べられている story
- ⑮ 0 ▶▶ ルール 18
- ⑯ 0 ▶▶ ルール 18
put in by Japanese fathersとあるので、theも可
- ⑰ the ▶▶ ルール 8-a-1
→ 問14のthe storyと同じ
- ⑱ the ▶▶ ルール 8-e
- ⑲ the ▶▶ ルール 8-e
- ⑳ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ of time spent with their kids
- ㉑ the ▶▶ ルール 8-e
- ㉒ 0 ▶▶ ルール 18
- ㉓ 0 ▶▶ ルール 18
否定的な文脈(depriveは否定的)の中ではtheを使わないほうが自然
- ㉔ 0 ▶▶ ルール 18
ここでのconversationsは特定のことを想定しているわけではないため、the conversationsではなく無冠詞にしている
- ㉕ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ demanded of adults
theの使用は、大人に要求されるsocial disciplineというものが当然存在すると筆者が考えていることを示唆する
- ㉖ 0 ▶▶ ルール 18
- ㉗ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ required of adults outside the home(問25参照)
- ㉘ 0 ▶▶ ルール 18
- ㉙ the ▶▶ ルール 8-c
- ㉚ 0 ▶▶ ルール 18
- ㉛ theも可(responsibilitiesの範囲に関して、明確な限定がなされているわけではないというニュアンスを表すために、筆者は無冠詞を選択したものと思われる)
- ㉜ 0 ▶▶ ルール 18
- ㉝ 0 ▶▶ ルール 19
- ㉞ the ▶▶ ルール 8-e
- ㉟ 0 ▶▶ ルール 8-e 注1
highestは形容詞として使われている
- ㊱ 0 ▶▶ ルール 18
- ㊲ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ for cooking ...
- ㊳ 0 ▶▶ ルール 18
- ㊴ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ to prepare meals
食事を作るためのknowledgeがどのようなものかは自明ではないと筆者が考えれば、無冠詞も可
- ㊵ 0 ▶▶ ルール 8-a-2
→ to prepare meals
knowledgeの前のtheがskillsにもかかっている
- ㊶ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ of encouraging enterprises ...
- ㊷ 0 ▶▶ ルール 18
- ㊸ the ▶▶ ルール 8-c
- ㊹ 0 ▶▶ ルール 18
- ㊺ 0 ▶▶ ルール 17
- ㊻ the ▶▶ ルール 8-a-2
→ for Japanese men to change ...
- ㊼ 0 ▶▶ ルール 18
- ㊽ 0 ▶▶ ルール 17
- ㊾ the ▶▶ ルール 8-c

日本の父親業

2006年9月30日(土)

日本、韓国、タイ、米国、フランス、スウェーデンを対象に、日本の国立女性教育会館が行った子育てに関する比較調査は、日本の父親が対処しなければならないさまざまな問題を浮き彫りにしている。問題は、子どもと過ごす時間の短さや、子どものしつけを妻に頼っていることから、そもそも父親になる準備が欠けていることにまで及んでいる。いくつかの問題は社会状況に責任があるかもしれないが、父親が自らの意識レベルを高めることによって状況を改善することは可能だ。

日本の父親が子どもと過ごす1日当たりの平均時間は、1994年の調査では3.3時間だったが、今回の調査では3.1時間だった。この時間数は、韓国の2.8時間に次いで2番目に短い。対照的に、タイの父親は5.9時間と最も長く、次いで米国とスウェーデンが4.6時間、フランスが3.8時間となっている。

これとは正反対に、日本の母親が子どもと過ごす時間は7.6時間と最も長く、次いで韓国、タイ、米国の7.1時間、スウェーデンの5.8時間、フランスの5.7時間となっている。

日本の父親が仕事に費やす時間の長さの問題があることは明らかだ。日本の父親は、平均で週に48.9時間と最も長時間働いており、次いで韓国の48.8時間となっている。一方、平均して一番短いのはスウェーデンの父親で、37.7時間だ。日本の父親の41パーセントが、子どもと過ごす時間が不足していると不満を持っており、前回調査の28パーセントから増加している。

仕事の重荷が、多くの日本の父親から子どもと遊ぶ機会だけでなく、家族と一緒に夕食をとる機会も奪っている。父親と母親の会話を聞く機会を持たない子どもたちは、大人に要求される社会的な規律を身につける重要な手がかりを奪われているのみならず、家庭の外で大人に求められる精神力、忍耐力、知恵、創造性などの能力を発達させる重要な手がかりも逃しているのではないだろうか。

調査はまた、日本の父親は子どものしつけと教育の責任を妻にゆだねる傾向があることを示している。幼稚園の保護者会に出席したことのある日本の父親はわずか11.9パーセントで、韓国の7.9パーセントに次いで2番目に低い。スウェーデンの父親の出席率が54.7パーセントで最も高く、米国(35.6パーセント)、タイ(29.8パーセント)、フランス(26.9パーセント)がそれに次いでいる。

調査によると、食事の支度をした、あるいは手伝ったことのある日本の父親は10.1パーセントにすぎず、これ対し、スウェーデンは45.6パーセント、米国は34.8パーセント、タイは27.6パーセント、フランスは27パーセント、韓国は20.4パーセントとなっている。日本の父親は、料理をする時間も、家族とともに夕食をとる時間もなく、あるいは食事の支度をする知識や技術を身につける時間もないように見える。

調査は、企業だけでなく政府も労働時間を減らす努力をし、父親がもっと家庭生活に参加できるように奨励することが大切であることを示唆している。同時に、日本の男性が仕事と家庭内での役割に関する考え方を変える必要性も示唆している。

著者プロフィール

椎名 照雄 (しいな てるお)

イー・アソシエイツ (株) 代表取締役。上智大学経済学部卒業。香港上海銀行、ファースト・インターステート銀行、AIG ファイナンシャル・プロダクツ、ウェストパック銀行において、国際金融、コーポレート・バンキング、プロジェクト・ファイナンス、デリバティブ取引、債券・金利ディーリング等を広く歴任。2000年、企業に対しIR・広報支援サービスを提供するイー・アソシエイツ (株) 設立。英国銀行協会 Diploma 取得。

著書・監訳書に『エネルギー・デリバティブの世界』(監訳、東洋経済新報社)、『金融英語の基礎知識』(共著、ジャパンタイムズ)、『国際金融実務のキーワード』(共著、ジャパンタイムズ) などがある。

監修者プロフィール

Kenneth William Cook, Ph.D. (ケネス・ウィリアム・クック)

米カリフォルニア州生まれ。カリフォルニア大学サンディエゴ校で言語学修士号、同博士号、およびスペイン語学士号取得。専門は認知文法、ポリネシア言語学、ロマンス言語学など。

現在、ハワイ・パシフィック大学言語学教授として、第二言語としての英語 (ESL) 教育に従事。また、ESL 教育者育成プログラムにおいて統語論、意味論、音韻論などの教育に携わる。グアテマラ、カリフォルニア、日本およびハワイで ESL 教育経験を持つ。サモア語、ハワイ語などに関する論文多数。著書に *Pocket Hawaiian Grammar* (共著)。1999年、日本学術振興会の研究奨励制度により、アジア・アフリカ言語文化研究所において研究に従事。

7日間完成 ネイティブ感覚が自然に身につく 英語の冠詞ドリル

2007年6月5日 初版発行

著者 椎名 照雄 ©Teruo Shiina, 2007

発行者 小笠原 敏晶

発行所 株式会社 ジャパンタイムズ

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-5-4

電話 (03) 3453-2013 [出版営業部]

(03) 3453-2797 [出版編集部]

振替口座 00190-6-64848

ジャパンタイムズブッククラブ

<http://bookclub.japantimes.co.jp/>

上記ホームページでも小社の書籍をお買い求めいただけます。

印刷所 マコト印刷株式会社

定価はカバーに印刷してあります。
万一、乱丁落丁のある場合は、送料当社負担でお取り替えいたします。
ジャパンタイムズ出版部宛てにてお送りください。

Printed in Japan
ISBN 978-4-7890-1260-7